

「ESD for 2030学び合いプロジェクト」  
関東での取り組み紹介

自然体験を通じて、生活に関わる  
SDGsを学ぶ

令和3年12月11日（土）

ESD推進ネットワーク全国フォーラム2021  
分科会－「ESD for 2030学び合いプロジェクト」の挑戦－  
③地域に根ざした多様なSDGs人材育成

関東地方ESD活動支援センター  
伊藤 博隆

# 学び合いプロジェクトで目指すもの

活動目的	自然体験を通じて、 生活に関わるSDGsを学ぶ
狙い	SDGsが自らの生活と密接な関係にあることを知り・その関係性を学ぶ
達成目標	自然学校での学びを日常生活での実践に結びつけるプログラムの作成と普及

**「ESDで重要な、「体験」を伴う活動を、  
自然学校で、SDGs学習も含め展開する」**

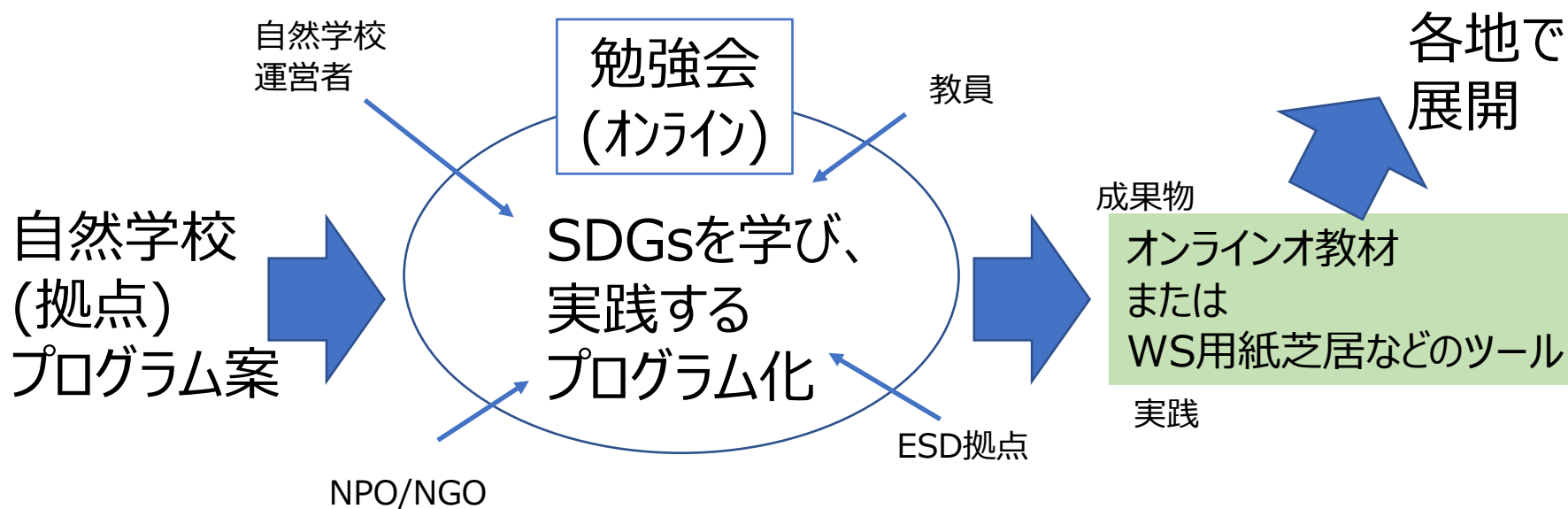
ためのプログラムづくり

「面白かった」だけでなく、家庭での実践に結びつけるためのプログラムとしたい

# 学び合いプロジェクト実施スキーム

自然体験を通じて、生活に関わるSDGsを学ぶ




自然学校での学びを日常生活での実践に結びつけるプログラムの作成と普及



プログラムのイメージ

対象：親子

内容：ワークショップ+畑 (+食事)

学ぶテーマ例：(飢餓  +フードロス )、フードマイレージ  など

# 学び合いプロジェクトで伝えたい内容



**畑の体験**

命をつなぐ



使い切り・食べ切り



「消費行動の変化」

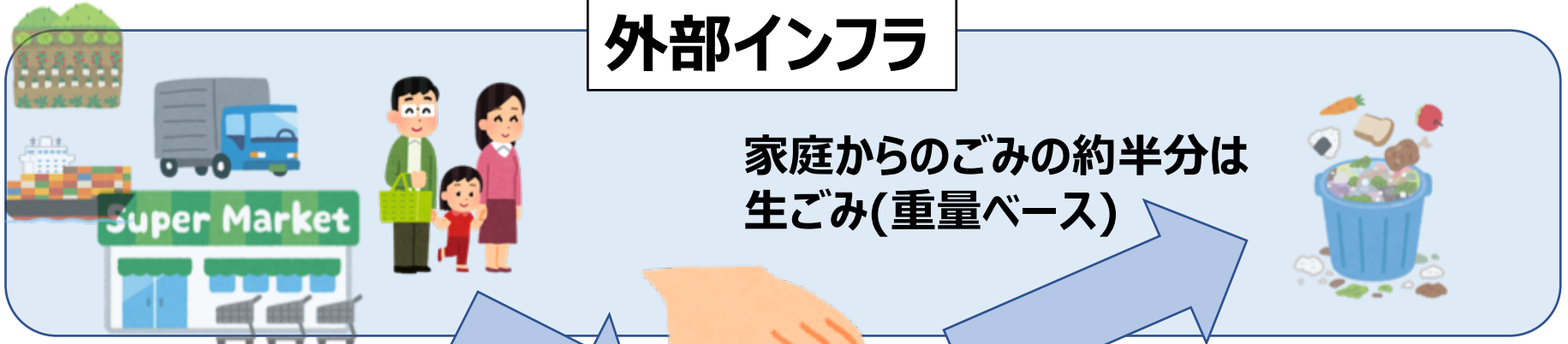
「コンポストの実践」

「家庭菜園づくり」

**行動の変化を促す**

# 学び合いプロジェクトで目指す成果

## 外部インフラ



家庭からのごみの約半分は  
生ごみ(重量ベース)



購入→消費→廃棄という  
流れだけでなく、「循環」を  
生活に取り入れる

行動変容

得られる成果 (アウトカム)

**ゴミ排出削減!**

(食品ロス削減)

一部を自家処理



プランターでもOK  
野菜を育ててみよう



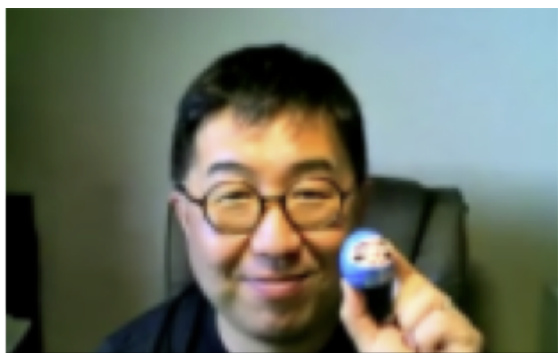
コンポストで、  
堆肥化!

# コア・メンバー



## 筑波大学付属坂戸高等学校 教諭 建元喜寿 先生（農業科、国際科）

- ・SGH（スーパーグローバルハイスクール）
- ・高校生国際ESDシンポジウム
- ・青年海外協力隊 現職教員特別参加制度  
インドネシア・環境教育（2008年～2010年）



## NPO法人チャウス 理事長 チャウス自然体験学校代表 加藤 正幸 さん

（独）国立赤城青年の家で、自然体験活動の指導・運営マネージメントを学ぶ。2002年12月チャウス自然体験学校設立。19年の活動と4万5千人以上の参加実績。

# 実施スケジュール

## 学び合いプロジェクトの概要

実践フィールド（群馬県桐生市）  
チャウス自然体験学校の畑



**目標：生ごみ排出削減  
食べ物の大切さを知る**

### 体験プログラム実施

畑での収穫・コンポストなどの体験など  
・対象：親子（小学校低学年+親）  
・時期：令和3年11月21日（日）

目標を達成するためには、**=今回の募集**  
どのようなプログラムを実施  
すれば良いのかを考えます。  
・オンライン参加  
・SNSで情報共有

プログラム案作成

9/27（月）締切

オンライン

第一回 7/26(月)  
18:00-19:30  
キックオフ  
本プロジェクトの狙いと現在の取組みなどについて共有します。

動画視聴可

参加者への  
インプット

オンライン

第2回 8/9(月)  
18:00-20:00  
勉強会  
コンポストなどを実践する方をお招きし、みんなで学びます。

動画視聴可

参加者への  
インプット

オンライン

第3回 10/2(土)  
13:30-16:00  
研究会  
皆さんに考えて頂いた案を共有し、プログラムを検討します。

参加者からの  
提案とりまとめ

現地開催(群馬)

第4回 11/21(日)  
10:00-13:00  
プログラム実施  
提案されたプログラムをもとに、現地でプログラムを実施します。

プログラム  
実施

オンライン

第5回 1/29(土)  
13:30-16:00  
リフレクション  
本プロジェクトの成果を検証し、ブラッシュアップします。

リフレクション

# 第1回 キックオフ



実施日 令和3年7月26日（月）18:00～19:30

方法 オンライン（zoomミーティング）

講師

- ・[NPO法人 持続可能な社会をつくる元気ネット](#) 理事長 鬼沢良子さん
  - ・[NPO法人 チャウス](#) 理事長 加藤正幸さん
- ※ともに、[地域ESD活動推進拠点](#)

**「今日から実践！食品ロス削減」**  
食品ロスの約半分は一般家庭から

ろすのん

家庭における食品ロスの内訳

Category	Percentage
一般家庭	55%
小売	27%
飲食店	18%

NO-FOODLOSS PROJECT

食べものに、もったいないを、もういちょ。

松本市の「30・10運動」(さんまるいちまる) 1世帯約50%/年 (約61,000円)

一人一人が「もったいない」を意識して行動  
○買い物 ○料理 ○食卓

料理を楽しむ食べきる、小盛メニューの選択、持ち帰り、  
30・10運動を見本に各地で展開中・・・【食べきり協力店】

家庭から出た食品廃棄物をたい肥化して野菜づくりやプランターで  
使用すると命の循環を学ぶいい機会になります

食品ロスと生ごみ削減・有効利用～私たちにできること～  
NPO法人 持続可能な社会をつくる元気ネット  
理事長 鬼沢良子さん



自然学校で実施しているSDGs学習プログラム  
NPO法人 チャウス 理事長 加藤正幸さん



# 第2回 勉強会



実施日 令和3年8月9日（月・祝）18:00～19:30

方法 オンライン（zoomミーティング）

講師

- ・NPO法人 循環生活研究所 理事／ディレクター 木村 真知子さん
- ・農業法人 菌ちゃんふぁーむ 社長 吉田俊道さん（菌ちゃん先生）



「たのしい循環生活  
#コンポストのある暮らし」  
木村 真知子さん



「生ごみで有用菌を増やし  
病害虫に強い野菜を育てる」  
吉田俊道さん（菌ちゃん先生）

# 「プログラム案」の宿題

関東地方ESD活動支援センター  
Education for Sustainable Development  
ESD-for-2030 学び合いプロジェクト〜「自然体験を通じて、生活に関わるSDGsを学ぶ」  
ESD プログラム記入シート

対象：小学校低学年子供+親  
人数：10人～25人程度  
実施場所：畑（サツマイモ収穫）、広場（テントあり）  
時間：2時間程度  
使用可能用具等：コンポスト、簡単な調理道具、紙芝居等  
※下記のフォーマットにご記入ください。1ページに収まらなくても構いません。

作成者 (ふりがな)	(団体または個人)		
作者名の公開	公開可00・00 非公開000 (ペンネーム=0000000000)		
作者メール	(非公開・事務局からの連絡のみ) 00-		
プログラム名			
ねらい			
期待されるSDGs 課題	ターゲット番号	期待される効果	
プログラム			
時間	場所・方法	内容	ねらい
用意するもの			
その他			

2回のインプット後、プログラム案をプロジェクトメンバーから募集



- ・筑波大坂戸高校生徒チーム
- ・環境教育NPOの方
- ・コミュニティ・ガーデン運営の方
- ・まちづくりNPOの方

6件のプログラム案をいただいた

# 第3回 勉強会



日時 令和3年10月2日（土）13:30～16:00

場所 Webにて開催（zoom）

協力 NPO法人チャウス、  
筑波大学附属坂戸高等学校  
（ともに地域ESD活動推進拠点）

## ＜発表プログラム一覧＞

- (1) 食べ物の気持ち～菌ちゃんと野菜が出会うまで～
- (2) 生きものはみんなぐるぐるサイクルつながっている
- (3) 生ごみで菌ちゃん野菜をつくろう
- (4) 大地から生まれたさつまいもをおいしく食べよう
- (5) サツマイモ収穫と芋つる加工調理
- (6) わたしたちのまなびあいをたしかめよう！～なにがかわりましたか？～



プロジェクト・メンバーから提案された内容をもとに、コアメンバー・事務局で実践プログラム案を検討。

# 第4回 プログラム実施



日時 令和3年11月21日（日） 10:00～13:00

会場 チャウス自然体験学校（群馬県桐生市）

参加

- ・親子4組（12名）
- ・筑波大学附属坂戸高等学校生徒
- ・プロジェクトメンバー（学校コーディネーター）
- ・チャウス自然体験学校学生ボランティアスタッフ

# 第4回 プログラム実施



## サツマイモ収穫体験

- ・人間の体を作る、食物がどのように出来るか理解する
- ・サツマイモは不作だったが、簡単ではない事が理解できた



## 紙芝居「さつまーもの夢」

プロジェクトに参加の筑波大学附属坂戸高等学校で食品ロスやコンポストについて研究を行うメンバーが、今回のためにオリジナルで創作した紙芝居を上演。サツマイモが育つために必要な栄養は、土壌の微生物によって作られる。菌の栄養は、コンポストで出来、ゴミの削減にもつながる



## コンポストを知る

- ・写真のタイプのほか不織布バック式など、様々なコンポストを見て、臭いを嗅ぐ（それほど臭くない）など体感する。
- ・観察用のペットボトルコンポストづくりを実施

→参加親子には、不織布バックと、ペットボトルコンポストを持ち帰ってもらい、家庭で実験・実践してもらうように説明。

# プロジェクトメンバーの感想



コンポストについて様々な形・大きさのものがあることについて知ることができました。  
今後、コンポストをもっと深化させていきたいと思っているので参考にさせていただきます。

自分の手で触る機会を作ることができてよかった。サツマイモ堀は少し失敗だったけど原因を学んだり、体験した後に食べることで得られたものはあったのではないかと思います。

いろいろな世代が集まる活動に参加でき大変勉強になりました。

学び合いプロジェクトに参加してきて、今まできちんと知らなかったことに関して多くの学びを得ることができ参加させていただいてよかったと感じています。今回4回目で私たち自身も発表をする時間をありがとうございました。もっと準備を細かくしたり、工夫できた点が多くあると感じました。今後の活動に今回の経験をいかしていきたいと思います。

# 参加した子どもの感想

- 今日の体験をきっかけに、  
今後やってみようと思ったことは何ですか？
- ・ ペットボトルのコンポストを頑張って続ける
- ・ ペットボトルでたい肥を作る
- ・ 今後、食べ物を残さないようにしたいと思った！
- ・ 生ゴミをコンポストに入れるお手伝いをしたい



プログラム実施者の思いが伝わり、  
自宅での継続が期待できる結果となった

# 参加した保護者の感想

## ● 今回のプログラムの内容にご満足いただけましたか？

- ・自分が取り組むことができなかつたコンポストを見たり、子供たちの学ぶ姿が見れたから
- ・コンポストによって生ゴミが削減され、出来た堆肥で美味しい野菜が作れるサイクルを学べたことが良かったです。
- ・野菜収穫や紙芝居などがあり、子どもも飽きずに参加していました。  
親としては、様々なコンポストの紹介があり、ますます生ゴミコンポストに興味を持ちました。

## ● 今日の活動内容から、どんな発見がありましたか

- ・コンポストの役割、種類の豊富さを身をもって体験できた。
- ・体験を通じて学習すると覚えやすいし、感じ方が聞いているだけより良いと思いました。
- ・大きな設備がなくても堆肥が作れること
- ・子どもが興味を持てたこと

まさにESDの本質

## ● 今日の体験をきっかけに、今後やってみようと思ったことは何ですか？

- ・自宅でも実践したいです（多数）



親子で参加して頂いたことで、家庭単位での実践が期待できる